

平成26年度 学校関係者評価報告書

大阪市立三先小学校 学校協議会

1 総括についての評価

- 本年度の学校の自己の評価はおおむね妥当である。
- 保護者が学校のことを信頼している様子が高く評価でき、安心できる。

2 年度目標ごとの評価

年度目標：[学力の向上]

- ① 今年度の「学習理解度到達診断」において、各学年・各教科の全体平均点が、低学年は80%、中学年は75%、高学年は70%を上回っている。(カリキュラム改革)
- ② 今年度末の「学校アンケート」で、児童用の「国語がわかる」「算数がわかる」、保護者用の「読み・書き・計算などの基礎学力がしっかりと身についている」の項目において、「よくあてはまる」「あてはまる」と答える割合を70%以上とする。(カリキュラム改革)
- ③ 今年度末の「学校アンケート」(保護者用・児童用)で、「家で自分から進んで学習している」と答える割合を70%以上とする。(カリキュラム改革)
- ④ 全学年において、「外国語（英語）授業」が、年間指導計画に基づいた時数を確保して実施できている。(グローバル改革)

○基礎学力の定着について、全国学力・学習状況調査の結果が2教科とも全国平均を上回っているので年度目標の達成に向けた取り組み内容の進捗状況についてはB評価でもよい。

年度目標：[健康・体力の保持増進]

- ① 平成26年度の「新体力テスト」において、実施する学年(3～6年)の合計得点の平均点を25年度より上回る。(カリキュラム改革)
- ② 今年度末の「学校アンケート」(保護者・児童用)で、「授業中に（家庭で）正しい姿勢を心がけている」と答える割合を70%以上とする。(カリキュラム改革)
- ③ 今年度末の「学校アンケート」(保護者・児童用)で、「給食を残さず食べようとしている」「家庭で好き嫌いなく食べ、良い食習慣が身に付いている」と答える割合を70%以上とする。(カリキュラム改革)

○学校の評価は概ね妥当である。

○体力づくりや運動への興味・関心を高めるために専門的な知識や技能をもった教員が児童の指導にあたることは有効な手立てであると考える。

年度目標：【道徳心・社会性の育成】

- ① 平成26年度の校内調査において認知した「いじめ」について、解消に向けて対応している割合を100%にする。(カリキュラム改革)
- ② 自ら進んであいさつができる児童の育成を図り、本年度末「学校アンケート」で「自分から進んであいさつができる」と答える児童の割合を85%以上にする。(カリキュラム改革)
- ③ 年間を通して計画的に防災教育を行い、児童アンケートで「学校や家庭・地域で地震が起ったときどう行動したらいいか知っている」と答える児童の割合を90%以上とする。(カリキュラム改革)

○学校の評価は妥当である。

○子どもたちがしっかりとしたあいさつができるように特に力を入れて指導してほしい。

年度目標：【特別支援教育の充実】

- ① 児童の実態を把握し、一人一人のニーズに応えるために、保護者との話し合いを活かして「個別の教育支援計画」・「個別の指導計画」を作成する。これを活かして全教職員で共通理解を図り、具体的な指導、支援方法の研修会を年2回実施する。(カリキュラム改革)

○学校の評価は妥当である。個々の状況に応じた指導をすすめてほしい。

年度目標：【学校・保護者・地域の連携の推進】

- ① 学校ホームページや学校だより・学年だより等による広報活動を充実させ、平成26年度末「学校アンケート」(保護者用)において「学校は情報公開を行っている」と答える保護者の割合を80%以上にする。(ガバナンス改革)

○学校の評価は妥当である。

○情報公開については難しい面もあるができるだけ確実な情報を分かりやすく伝えるようにしてほしい。

年度目標：【教員の研修の充実】

- ①全教員が年1回以上、研究・公開授業を行う。(マネジメント改革)
 - ②若手教員の指導力向上を図るために、年5回以上様々な形態で研修を実施する。(マネジメント改革)
- 学校の評価は妥当である。
 - 若手教職員の頑張りや指導力の向上に期待したい。

3 今後の学校運営についての意見

- 今年度を振り返って明らかになった「意見を交流できる子ども」の育成をめざして、単年度ではなく複数年度にわたる計画を立てて取り組んでほしい。
- 若手教員も増えてきているので、子どもたちの見本になるような人間力や指導力がつくように学校全体として高めてもらいたい。